

# 事業報告書

## 令和3年度

社会福祉法人 緑風会

特別養護老人ホーム 緑風館

緑風デイサービスセンター

小規模多機能「みどりの家」

居宅介護支援事業所 緑風館

緑風在宅介護支援センター

## 《 目 次 》

I	法 人 の 概 要	.....	1~3P
II	介 護 老 人 福 祉 施 設	.....	4~28
III	短 期 入 所 生 活 介 護 事 業	.....	29~30
IV	通 所 介 護 事 業	.....	31~37
V	小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護 事 業	.....	38~42
VI	居 宅 介 護 支 援 事 業	.....	43~44
VII	在 宅 介 護 支 援 セ ン タ ー	.....	45~46

# I 法人の概要

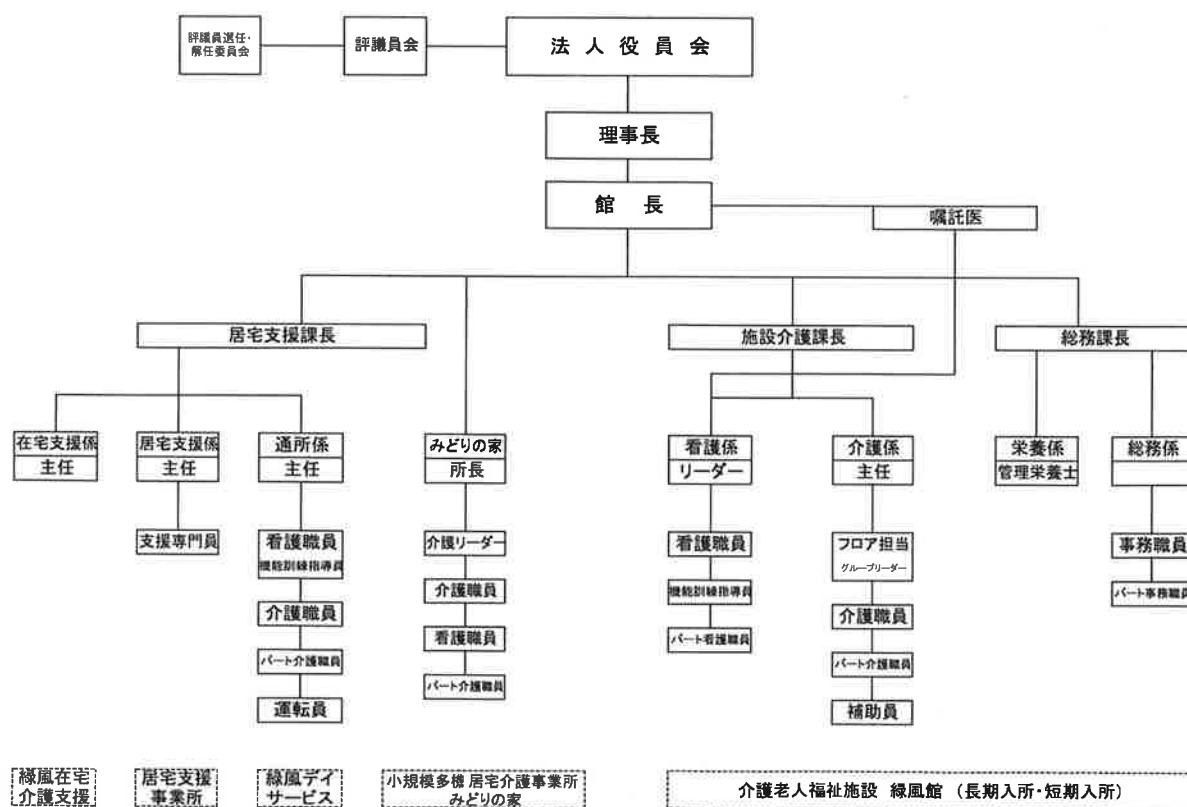
## 1 名称及び所在地

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 法 人 認 可 平成6年2月7日

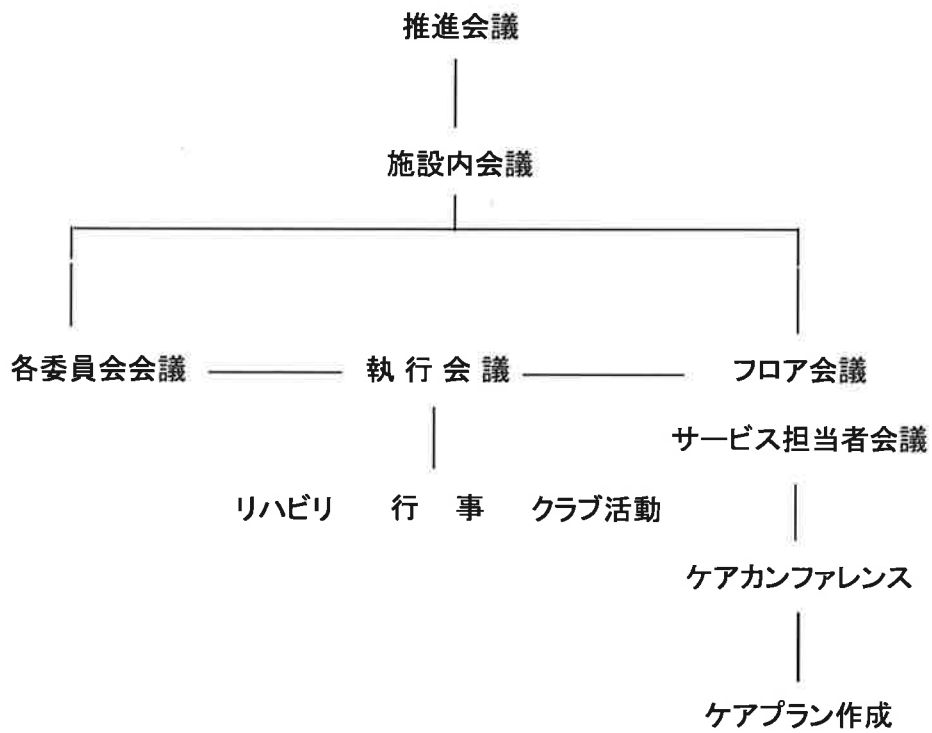
## 2 法人の組織

令和4年3月31日現在

緑 風 会 組 織 表



### 3 業務の運営体制



### 4 職員の勤務体制

事務職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
ケアワーカー	早出	A M 7:00 ~ P M 4:00
	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
	夜勤	P M 4:30 ~ A M 9:30
看護職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00

## 5 職員配置

### 〔1〕事業別職員移動及び配置

区 分	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 緑風館		通所介護 緑風デイサービス		居宅介護支援 緑風館		小規模 みどりの家		緑風在宅介護 支援センター		合 計		
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	合計人 数
3年度 入職者数	1	7		3				1			1	11	12
3年度 退職者数		9		1				1			0	11	11
施設長	1										1	0	1
管理者							1				1	0	1
嘱託 医師		1 (0.1)									0	1 (0.1)	1
事務 職員	2	1 (0.5)									2	1 (0.5)	3
相談員	1		1						1		3	0	3
介護支援 専門員 <small>ケアワーカー兼務</small>	0.5				2	1 (0.8)					2.5	1 (0.8)	3.5
ケア ワーカー (うち介護 福祉士常 勤換算)	17.5	14 (8.9)	1	7 (5.8)			3	11 (6.2)			21.5	32 (20.9)	53.5
	<b>【13】</b>	<b>【0.5】</b>	<b>【1】</b>	<b>【1】</b>			<b>【2】</b>	<b>【3】</b>			<b>【16】</b>	<b>【4.5】</b>	<b>【20.9】</b>
看護 職員	2	4 (2.5)	2	1 (0.7)			1				5	5 (3.2)	10
機能訓練 指導員	1										1	0	1
栄養士	1										1	0	1
その他		6 (2.7)									0	6 (2.7)	6
合計	26	26 (14.7)	4	8 (6.5)	2	1 (0.8)	5	11 (6.2)	1	0	38	46 (28.2)	84

令和4年3月31日配置状況 ( ) は常勤換算数

## Ⅱ 介護老人福祉施設

### 1 施設の概要

- [1] 名称 特別養護老人ホーム 緑風館
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開設 平成6年6月20日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 定員 60名
- [6] 土地・建物
- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 土地面積  | 2,742.36㎡            |
| 建物構造  | 鉄筋コンクリート造り 3階建(一部4階) |
| 建物延面積 | 3,020.41㎡            |

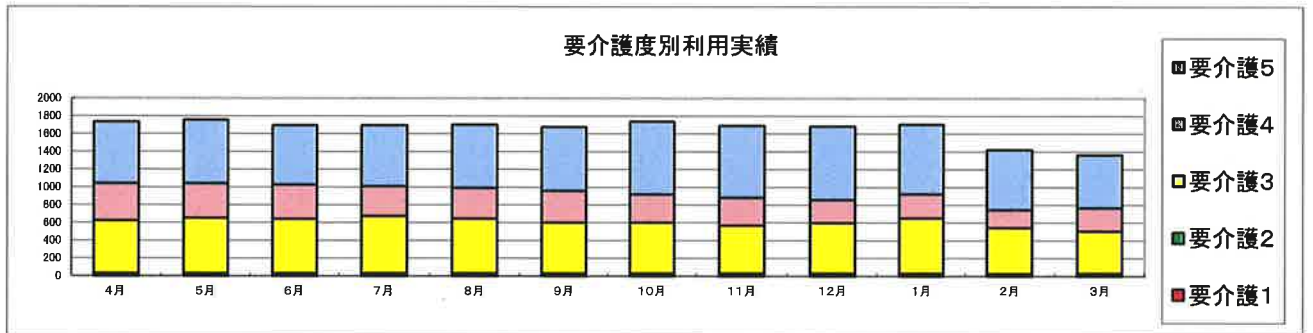
### 2 入所者の状況

#### [1] 月別入退所者数

区分	平成6 ~ 令和2年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和 3年 度計	累計	男	女
入所者数	463	1	0	2	1	3	0	2	0	3	1	0	3	16	479	131	348
退所者数	401	2	1	3	1	2	2	1	1	2	2	5	5	27	428	119	309
月末 在籍 者数		61	60	59	59	60	58	59	58	59	58	53	51				

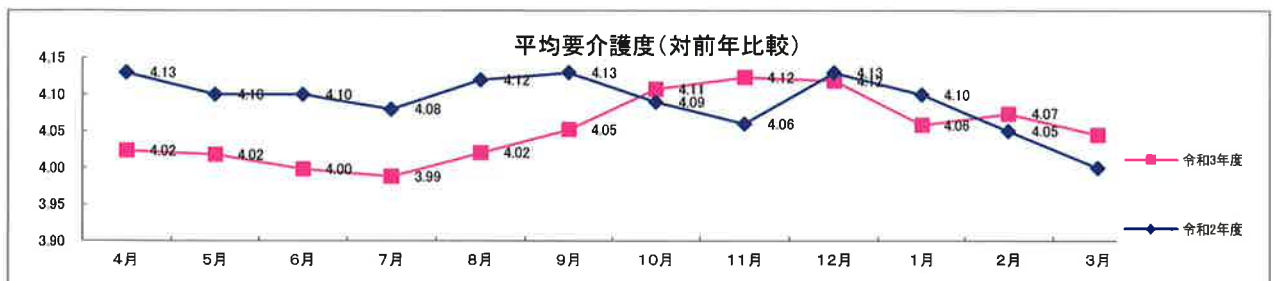
[2]要介護度別利用実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和3年度	要介護1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護2	人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	要介護3	人	22	22	23	22	22	21	20	19	20	22	20	19	252
		延	592	620	610	644	614	572	571	539	567	622	515	473	6939
	要介護4	人	14	14	14	12	13	13	11	12	11	10	9	10	143
		延	420	392	388	336	345	356	318	315	258	271	202	263	3864
	要介護5	人	26	24	24	25	26	25	28	27	29	27	28	26	315
		延	693	713	667	686	711	720	820	808	829	784	676	596	8703
	合計	人	63	61	62	60	62	60	60	59	61	60	58	56	722
		延	1735	1756	1695	1697	1701	1678	1740	1692	1685	1708	1421	1363	19871
	平均介護度		4.02	4.02	4.00	3.99	4.02	4.05	4.11	4.12	4.12	4.06	4.07	4.04	4.05



平均要介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	4.13	4.10	4.10	4.08	4.12	4.13	4.09	4.06	4.13	4.10	4.05	4.00	4.09
令和3年度	4.02	4.02	4.00	3.99	4.02	4.05	4.11	4.12	4.12	4.06	4.07	4.04	4.05



〔3〕入所期間別状況

(令和4年3月31日現在)

区分	6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上	合計
男	2	3	3	2	2	0	12
女	6	2	17	6	8	0	39
合計	8	5	20	8	10	0	51

平均入所期間	2年8ヶ月
--------	-------

〔4〕年齢別分布状況

(令和4年3月31日現在)

区分	65～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男	3	1	1	3	4	0	0	12
女	0	3	4	12	11	7	2	39
合計	3	4	5	15	15	7	2	51

平均年齢	男性 83 歳	女性 89 歳	平均 87 歳
------	---------	---------	---------

最少年齢	70 歳
------	------

最高年齢	100 歳
------	-------

〔5〕身元引受人状況

(令和4年3月31日現在)

続柄	配偶者	子	孫	甥・姪	成年後見人	合計
人数	8	38	1	2	2	51

〔6〕退所事由別数調

区分	死亡		長期 入院	その他	合計
	施設	病院			
退所者数	14(10)	7	6	0	27

※( )内は看取り介護の数

〔7〕入所前居住場所調

区分	在宅	療養 病院	老健 施設	療養型 施設	その他	合計
入所者数	7	1	8	0	0	16

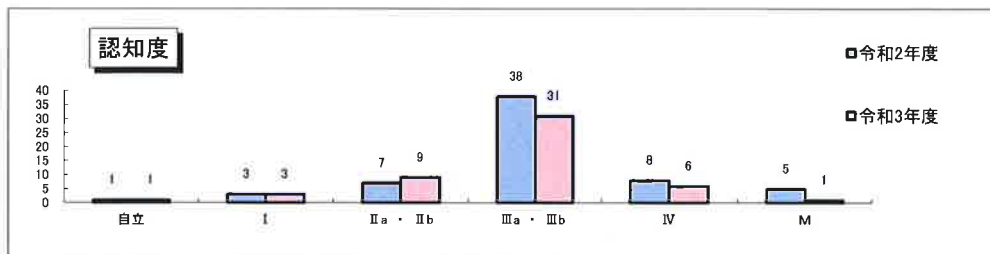
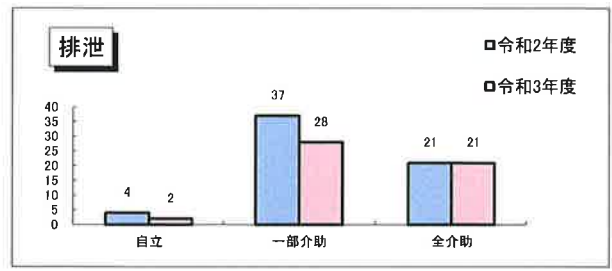
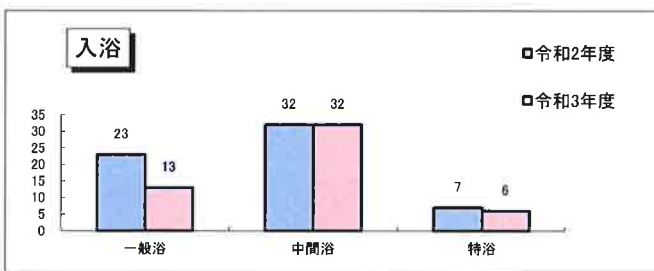
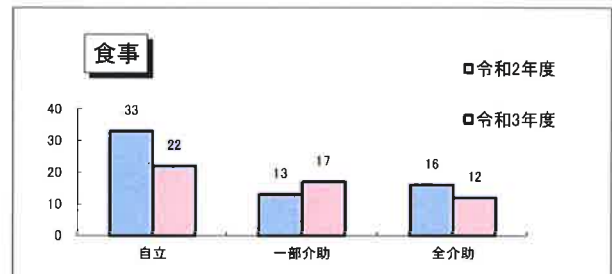
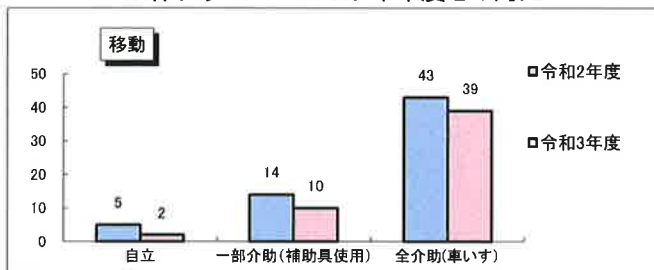


〔8〕入所者の日常生活・認知度状況

(令和4年3月31日現在)

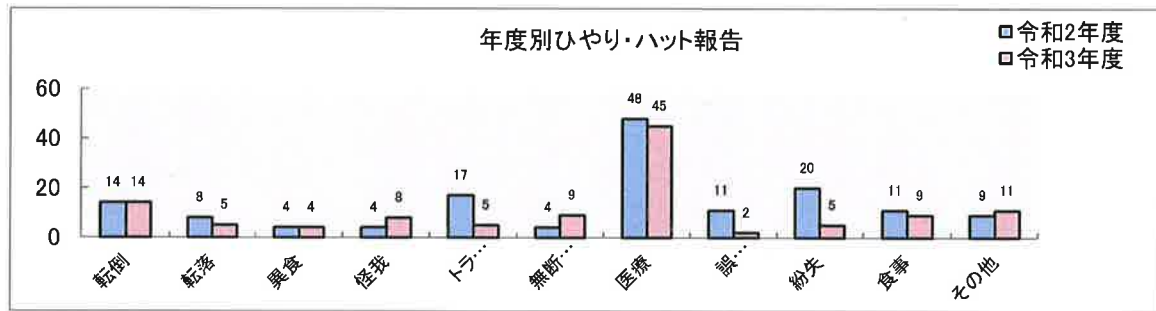
区分		令和2年度	1階	2階	3階	合計	割合
移動	自立	5	0	2	0	2	4%
	一部介助(補助具使用)	14	5	2	3	10	20%
	全介助(車いす)	43	13	19	7	39	76%
食事	自立	33	8	12	2	22	43%
	一部介助	13	9	4	4	17	33%
	全介助	16	1	7	4	12	24%
入浴	一般浴	23	4	6	3	13	25%
	中間浴	32	14	13	5	32	63%
	特浴	7	0	4	2	6	12%
排泄	自立	4	0	2	0	2	4%
	一部介助	37	13	9	6	28	55%
	全介助	21	5	12	4	21	41%
認知度	自立	1	0	1	0	1	2%
	I	3	0	3	0	3	6%
	Ⅱa・Ⅱb	7	3	4	2	9	18%
	Ⅲa・Ⅲb	38	13	12	6	31	60%
	Ⅳ	8	2	2	2	6	12%
	M	5	0	1	0	1	2%

※棒グラフについては昨年度との対比



[9]ひやり・ハット報告書作成状況

区分	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	14	0	2	1	3	3	0	0	2	2	0	0	1	14
転落	8	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	5
異食	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	4
怪我	4	1	0	1	2	0	1	0	1	1	0	0	1	8
トラブル	17	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	5
無断外出	4	0	0	1	0	1	1	1	2	1	1	0	1	9
医療	48	4	4	6	4	3	8	3	3	4	3	0	3	45
誤嚥・誤飲	11	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
紛失	20	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	5
食事	11	5	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	9
その他	9	2	0	0	0	1	0	3	2	0	1	0	2	11
合計	150	16	8	11	10	11	12	8	11	9	8	1	12	117



[10] 事故報告(市への報告事故)状況

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院の有無
1	令和3年4月5日	転倒	左橈骨遠位端骨折	男	平成病院	無
2	令和3年5月27日	転倒	左大腿骨頭部骨折	女	翠鳳第一病院	有
3	令和3年6月19日	転倒	左大腿骨頭部骨折	女	淡路医療センター	有
4	令和3年7月7日	転落	怪我	女	翠鳳第一病院	無
5	令和3年9月2日	転倒	第2腰椎圧迫骨折	女	淡路医療センター	有
6	令和3年9月17日	転倒	右手首骨折	女	翠鳳第一病院	有
7	令和3年9月26日	誤嚥	窒息	女	淡路医療センター	無
8	令和3年10月6日	転落	打ち身	女	翠鳳第一病院	無
9	令和3年10月29日	不明	左肩部骨折	女	中林病院	無
10	令和3年12月21日	転倒	第3腰椎圧迫骨折	女	洲本伊月病院	有
11	令和4年2月13日	感染症	新型コロナ陽性	女	聖隷淡路病院	無

[11] 苦情・要望状況

苦情	13 件
要望	20 件
意見	8 件

家族から	31 件
利用者から	8 件
事業所から	2 件
その他	0 件

### 3 総務係

#### (1) 収支差額の確保

- ① 令和3年報酬改定に対応した新たな介護報酬加算取得。科学的介護推進体制加算の取得については、利用者情報データ入力等の準備を進めた。
- ② 財務状況を毎月、職員会議で報告、各事業の収入確保について検討会を行った。

#### (2) 計画的に施設設備に実施

- ① 新型コロナウイルス拡大防止対策の個室化改修事業を活用して、105・106号室の個室化工事(工事総額1,223.5万円 助成金782.4万円)を行った。
- ② 車いす対応浴槽(購入額369.3万円)と兵庫県労働環境支援事業を活用してベッド 15台(購入額413万円 助成金182.5万円)を購入した。

また、WEB会議用としてノートパソコン1台(購入額13.2万円)、感染症対応として顔認証温度検知器(購入額26.4万円)、清拭車(24.6万円)、みどりの家の介護ソフト(購入額144.3万円) 緑風館の介護ソフト(購入額40.3万円)ミキサー(購入額13.2万円)等を 購入した。

#### (3) 法人及び経営情報を公表

- ① 現況報告書等(現況報告書、計算書類)の情報を公表。また、ホームページにおいて、前年度財務諸表(緑風だよりも掲載)と前年度事業報告書を公表した。

#### (4) 人材の確保

- ① 島内高校6高等学校及び神戸の専門学校を訪問し求人説明、またハローワークのミニ面接会、介護求人面接会に参加した。
- ② 職員の介護福祉士取得を支援した。(実務者研修助成、受験費用、受験日を講習扱い)
- ③ 職員紹介制度導入により求人活動行い、職員2名を採用した。

#### (5) 施設防災計画

- ① 施設の備蓄食品リストと献立を確認、必要食品を購入した。
- ② 非常時に備え、非常食ご飯の使用方法を確認した。

#### (6) 労働環境改善

- ① 介護サービス利用料支払い方法に、口座振替を導入したことで、業務負担を軽減した。
- ② Webシステム(ズーム)を活用して、職員会議を行った。
- ③ 就業規則にハラスメント規程の導入、職員に周知した。

#### 外部研修会参加一覧表

(うちオンライン研修参加数)

研修内容	特別養護老人ホーム緑風館	緑風デイサービスセンター	小規模みどりの家	居宅介護支援緑風館	緑風在宅介護支援センター	合計
医療連携		1 ( 1 )				1 ( 1 )
防災	2	1			1	4
食事・給食業務	5 ( 4 )		1 ( 1 )			6 ( 5 )
行政・保険・法改正	2					2
総務・財務 事務	5 ( 5 )					5 ( 5 )
ケアマネ				52 ( 50 )	13 ( 12 )	65 ( 62 )
資格取得・スキルアップ ・人材育成	44 ( 38 )	18 ( 15 )	19 ( 12 )	13 ( 8 )	8 ( 8 )	102 ( 81 )

地域 サポート・ケア	10 ( 2 )	1		9 ( 5 )	11	31 ( 7 )
感染予防	10 ( 10 )			1 ( 1 )	1 ( 1 )	12 ( 11 )
その他	5	1 ( 1 )		2 ( 1 )	1 ( 1 )	9 ( 3 )
合計	83 ( 59 )	22 ( 17 )	20 ( 13 )	77 ( 65 )	35 ( 22 )	237 ( 175 )

#### 4 栄養係

##### (1) 栄養ケア・マネジメント

- ① 体重変化や食事摂取量低下がみられた場合は多職種で検討し、咀嚼能力に合った食事に変更し、栄養補助食品の提供を実施した。
- ② 疾病に応じた食事提供については、下表のとおり提供した。

##### 療養食

療養食内訳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿食	実人数	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	19
	延べ食数	196	186	180	186	186	166	93	90	93	93	84	93	1646
心臓食	実人数	9	9	9	10	11	11	11	11	11	10	10	10	122
	延べ食数	810	837	810	912	991	986	1019	986	1023	909	836	850	10969
腎臓食	実人数	6	6	6	6	5	4	4	4	4	4	4	3	56
	延べ食数	506	558	540	508	424	360	372	360	372	372	296	279	4947
肝臓食	実人数	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	27
	延べ食数	270	212	206	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2332
脾臓食	実人数	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
	延べ食数	180	186	157	93	93	90	93	90	93	93	84	31	1283
貧血食	実人数	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	2	26
	延べ食数	90	93	90	98	186	180	222	270	279	279	222	186	2195
合計	実人数	24	23	23	23	23	22	22	22	22	21	21	19	265
	延べ食数	2052	2072	1983	1983	2066	1962	1985	1976	2046	1932	1690	1625	23372

③ 排便状況を観察し、定期的に評価していくことで、自然排便への取り組みを継続した。

④ 口腔機能及び嚥下機能にあわせた食事提供については、内科医師と歯科医師の指示のもと経口維持(Ⅰ)(Ⅱ)を計画し、実施した。

##### 経口維持

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	Ⅰ	14	14	13	17	16	17	22	22	21	19	16	12	203
	Ⅱ	13	13	13	16	14	14	20	21	21	17	14	11	187

##### (2) 安全安心な食事の提供

- ① 職員のうがい手洗い及び日々の体調維持管理の徹底については、こまめな手洗いとうがいをを行い、委託業者の体調については個人衛生管理表で確認した。
- ② 安全な環境下での食事提供については、非常食を含めた食品の賞味期限の確認を行い、

それぞれ期限内に使用した。

- ③ 介護職員と栄養士により「配膳室チェックシート」を用いて、配膳室の日々の衛生管理を行った。

(3) 食の楽しみ

- ① 季節を感じる食事として、下表のとおりパーティ形式の食事を提供した。

【特養】

4月	5月	7月	8月	9月	11月	12月
お花見弁当	子供の日	七夕	土用の丑	敬老の日	美食ランチ	クリスマス
1月	2月	3月				
おせち	節分	ひな祭り				

【デイサービス】

11月	12月	1月
寿司パーティ	焼肉パーティ	鍋パーティ

- ② 喫茶コーナーでは、希望のメニューを用意し、選んでいただくことで普段とは違うおやつの時間を提供できた。

5 介護計画係

(1) 多職種連携による情報収集、分析

① 定期的なサービス担当者会議、ケアカンファレンスの開催

サービス担当者会議について、今年度より事前に各専門職（介護支援専門員、看護職員、管理栄養士等）で情報集約を行った上で各フロア会議内にて検討会議を行うよう方針転換を行った。ケアプラン作成に必要な情報をもとに検討を行うことで、専門性をもった視点で計画立案ができた。フロア会議内でのサービス担当者会議は年間計36回実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度は19回の開催にとどまったが、利用者一人ひとりの課題を細かく検討し、利用者本人にあったケアプラン作成に繋がった。

「ケアカンファレンス 本人及び身元引受人の参加実績」

区分	令和2年度	令和3年度	前年対比
開催回数	116回	69回	47回減
本人 参加回数	3回	4回	1回増
身元引受人 参加回数	113回	65回	48回減
本人及び身元引受人 参加率	100%	100%	増減なし

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、島内外在住の身元引受人に郵送でケアプランの説明をし同意を得たことが多かったため、開催総数は減少した。

「ケアカンファレンス参加者の続柄別内訳」

区分	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見人	その他	本人	合計
参加延人数	9名	47名	20名	4名	0名	0名	1名	0名	4名	85名
割合	11%	55%	23%	5%	0%	0%	1%	0%	5%	100%

- ② ケアプランの見直しや身元引受人との相談支援を綿密に行うことで信頼関係を深めることができた。また、身元引受人からの土日祝日の日程希望への配慮、身元引受人への事前連絡調整、生活相談員等との連携を図ることで、柔軟なスケジュール調整ができた。(カンファレンスの日程変更16件)。

(2) 継続的かつ根拠のある課題分析

① 「令和3年度 アセスメントツールの活用実績」

アセスメントツールの種類	気づきシート	センター方式 A-3	センター方式 A-3以外	包括自立支援プログラム
延利用者数	107名	119名	13名	97名

利用者個々の状態に合わせた多様な書式の活用により、その人らしさの追求や自立支援を行い、生活の質の向上に繋げることができた。

- ② 認知症ケア委員会と連携し、13ケースについて課題抽出をすることで、精神・行動支援のケアプランを提供することができた。また、排泄委員会との連携においては、排泄ケアに特化したケアプランを2ケース作成にとどまった。看取りケア委員会との連動を密に行うことで看取りケアに対するケアプランの質の向上にも繋がり、今年度は10ケースの作成にも繋がった。

(3) ケアプラン実施に対する定期的な効果検証

- ① ケアプラン作成・変更の2週間後のモニタリングは28名について実施し、効果検証を行った。定期更新以外の適時の変更については27名分のケアプラン変更を実施することができた。
- ② 毎月のモニタリングは担当職員が行い、介護支援専門員が確認している。また、モニタリング実践記録表についても担当職員が毎月記入して、介護支援専門員が確認をしている。

「関係機関との情報交換」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15件	15件	15件	17件	14件	12件	13件	13件	13件	14件	12件	12件	165件

6 生活相談員

(1) 利用率目標値の達成

① 「長期入所、短期入所の利用率実績」

長期入所	短期入所	特養全体
90.82%	119.15%	94.86%

(2) 定期的な事業所訪問と情報交換

① 「関係機関への訪問件数」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7件	10件	11件	10件	10件	11件	10件	12件	11件	0件	0件	11件	103件

「関係機関との情報交換」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12件	14件	15件	19件	16件	20件	17件	18件	19件	16件	10件	19件	195件

(3) 加算の取得

- ① 未取得である新たな加算情報の集約に向けて、関係者及びインターネット等での情報

集約を実施。特に「科学的介護推進体制加算」を取得している他施設に協力を依頼し、加算について情報を聞き取る。

- ② 新たな加算取得に向けて検討を行う。「科学的介護推進体制加算」について、実際に加算取得に向けてのデータを整理。入力必須項目については、令和4年度加算に向けて各専門職で役割分担を行い、その上で入力を開始している。

#### (4) 住民及び他事業所への空床状況案内

- ① 空床状況表の更新について、短期入所の空きが少なかった4月については作成していない。また、2月、3月に関しては新型コロナウイルス感染症の影響を受けて作成しなかった。
- ② 空床状況表の更新月には関係機関訪問時、全機関に空床状況表の配布が実施でき実際に新規や臨時でのショートステイ利用にも繋がった。
- ③ 空床状況表の更新月には緑風館ホームページにアップデートを実施できた。また、SNSを活用することで緑風館での利用者の生活ぶりや職員の支援を地域にアピールできた。
- ④ ICT活用に向けて準備を行った。iPad導入により特に食事や排泄データ入力の工夫が行えるようになり、また画像撮影や編集等利用もスムーズに行えるようになった。パソコンを整備することでリモート研修、Web会議の実施が可能となり、コロナ禍の適応にも少しずつ対応できるようになった。

#### (5) 社会資源との結びつきに対する工夫

- ① 行政、各種関係機関等との連携や結びつきについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度も実施困難な1年となった。
- ② 実習生、ボランティアの受け入れについては新型コロナウイルス感染症の影響によりできなかった。
- ③ 施設内ホールの住民への開放を目指し推し進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度も地域支援、地域交流は困難であった。行事やレクリエーションにおいても、学校や保育園をはじめ、地域の方々との交流は難しく、職員や利用者との交流はできなかった。

## 7 1階介護係

### (1) 快適性、安心、安全への追求

#### ① 感染予防対策強化としての環境改善

定時の換気、毎日の感染予防の実施、手指消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保に力を入れた。また、感染予防のDVD学習、感染症対策フローの確認を行うことで職員の感染予防の意識を高めた。

#### ② 定期的なリスクマネジメントの実施

フロア会議等にて、事故報告書、各種発見、ひやりハット、気づき報告書からの事例を細かく検証し、事故の未然防止、再発防止に努めた。

#### ③ 不適切ケア防止についての課題分析、解決への強化

身体拘束ゼロ委員会による『NO！不適切ケア』を基に、言葉かけに留意をすすめた。それと共に認知症ケア委員会より掘り下げた不適切ケアについて細かく課題分析をし、年間を通じてなくしていくよう努めた。

## (2) 生きがい支援の充実

### ① 健康維持に繋がる体操や音楽活動への支援

毎日のラジオ体操の実施を支援。レクリエーションの一環として、体操等を行い運動不足の解消に努め、健康の維持に繋げた。

### ② 季節感を感じられるフロア行事の実施

月例行事担当者が、季節感を感じるレクリエーションを計画して適時実施した。

4月	歌と体操	9月	散歩
5月	日光浴	10月	ハロウィンパーティー
6月	フルーツ寒天	11月	風船バレー
7月	フルーツポンチ作り	12月	クリスマスケーキ作り
8月	かき氷作り	3月	梅の花見

### ③ 四季を取り入れた作品作り

季節にちなんだ作品を利用者と一緒に作成して、フロアの壁面等に貼り出した。

## (3) 情報の共有化

### ① 各書式と連絡帳を活用した報告・連絡・相談の徹底

連絡ノートや各種チェック様式(家族宛に画像を送付したかのチェック等、各様式に添付する回覧・確認印用)を活用することで、報告・連絡・相談の徹底を行った。

## 8 2階介護係

### (1) 安全で安心できる環境づくり

#### ① 毎日、感染予防消毒を実施。感染症発生時の対応策やゾーニング対策を検討した。

新型コロナウイルス感染症発生時には専用ファイルを作成し、変化していく状況の中で、誰もが対応できるように努めた。

#### ② 毎月のフロア会議にて情報共有と対策について検討を行った。感染症対策のため、会議が実施できない際は、書面にて情報の共有に努めた。

#### ③ 古くなったソファの買い替えを実施。また、ソファ位置の変更やテレビの高さを変更することで、より過ごしやすい環境作りを行った。また長寿番付表を作成することで話題作りや関わりの際に活用ができた。

#### ④ 介助用リフトのシート活用方法について、フロア会議で検討し、活用の徹底を図った。また、排泄介助時間の変更や追加等を行い、利用者にとってより良いケアが行えるよう都度の業務の見直しを行った。レクリエーションは午前中に実施することで、余裕を持って業務にあたることができた。

### (2) その人らしさの追求と自立支援

#### ① 昨年度に引き続き、各担当者による居室の環境作りに努めた。思い出の写真を掲示したり、ベッド位置を利用者と相談して変更する等、その人らしい居室の環境作りを行った。

#### ② 喫茶コーナーの他、ミニ喫茶やお茶会等で選択メニューを実施した。フロア環境の見直しを行い、多床室側と個室側それぞれで過ごせる場所を検討した。

#### ③ 下記のレクリエーションを立案実施した。



4月	たこ焼き作り	9月	風船バレー
5月	館外への散歩	10月	ハロウィンパーティー
6月	フルーツ白玉作り	11月	秋のお茶会
7月	ミニ喫茶	12月	クリスマスケーキ作り
8月	魚釣りゲーム	1月	福笑い

2月と3月は感染症対策のため、中止した。また利用者と一緒に春夏秋冬の壁紙を作ることで、季節を感じる事ができた。

### (3) 個別ケアの充実

- ① 6ケースについてセンター方式を活用し検討を行った。精神状態や睡眠時間、排泄サイクルとの関連についての検討と把握を行うことで、統一したケアに繋げることができた。
- ② 連絡帳活用の徹底の他、ICTの活用として、食事摂取表のペーパーレス化やナースコールセンサー付きベッド活用による安全対策に繋げた。業務の簡略化や利用者の安全性向上に繋げた。

### (4) 尊厳への配慮

- ① ケアへの振り返り、不適切ケア、セクションにおける言葉かけNGワードの検討を行った。身体拘束ゼロ委員会や認知症ケア委員会での検討内容等についてもフロア会議で話し合う機会を設けたことで、尊厳に対する意識づけに繋げた。
- ② 居室内の環境整備は各担当者を中心に実施したが、プライバシー配慮までには至らなかった。今後も工夫、検討が必要。
- ③ 法人における虐待防止のための指針や身体拘束ゼロ委員会のアンケートについて周知を図った。感染症対策のため、フロア会議等が中止になることが多く、話し合う機会は例年に比べ減少した。今後、個人面談等も有効に活用し、不適切ケア根絶を目指したい。

## 9 3階介護係

### (1) 安心できる快適な環境作り

- ① フロアの環境については、新しく長椅子を購入し設置することで、利用者同士での会話がしやすくなった。また、居室の環境についても、利用者に合わせてベッドの位置やタンスの位置を変更することにより、安全面での配慮がなされ、より使いやすくなった。
- ② 職員の感染予防についての考え方について、感染症対策委員会での検討案をセクションにフィードバックすることで意識改革に繋げた。毎日の感染予防消毒に力を入れて実施した。

### (2) 寄り添うケアの実現

- ① 利用者主体のケアについて、利用者の状態等を担当職員が主となり、より良いケアについて都度検討し、実行することで利用者の笑顔に繋がった。
- ② リネン交換については専属職員の雇用により、週3回はフロア職員でのリネン交換業務を別の業務ができるようになり、改めて利用者への手厚いケアに繋がった。
- ③ ケアプランを基に利用者が笑顔になるようなケアに努めた。また、フロア会議等で利用者の状態等を共有し、課題があれば迅速に検討し、解決につなげた。楽しく過ごせるよう、レクリエーション等にも力を入れ実施した。

### (3) 安全性に配慮されたケアの工夫

- ① リスクマネジメント委員会や身体拘束ゼロ委員会等での検討内容をセクションにも伝達し周知を図ることでより良いケアに繋がった。今年度も引き続き移乗用リフト等を活用することで安全に移乗することができ、また職員の負担軽減にも繋がっている。
- ② 事故等事例についてリスクマネジメント委員会内で報告、再発防止策検討を実施し、その内容も踏まえフロア会議や日々の業務の中で検討、具体策立案をすることで、事故予防、再発防止に努めた。

## 10 看護係

### (1) 嘱託医との連携による健康管理

- ① 利用者個々の既往歴については、入所時や病変時等に生活相談員及び介護支援専門員、嘱託医と連携を図ることで状況把握に繋がっている。体調不良時には嘱託医に報告を行い指示を仰ぎ、適切な対応が実施できた。
- ② 定期血液検査や健康診断、各種予防接種のサポートは確実に実施できた。

血液検査	64名	健康診断	64名
インフルエンザ予防接種	56名	肺炎球菌予防	3名
新型コロナワクチン接種	1回目 63名	2回目 61名	3回目 40名

### (2) 感染症等の予防

- ① マスクやガウン、手袋、手指消毒液等の備蓄は、館長、総務課と連携を図りながら残数をチェックしてその都度追加発注を行い、職員に対して使用喚起に努めた。マスクに関しては利用者にもできる限りの使用を勧めている。
- ② 感染予防マニュアルの確認と周知を徹底した上で、手洗い、うがい、手指消毒の啓発を徹底して実施。手順教育等は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、施設内会議の中止にいたることとなったため、学習用DVDや動画の活用や随時の助言や教育、ポスターの掲示や厚生労働省資料の配布、回覧等、できる範囲での工夫による周知、感染症対策への啓発を図る。
- ③ 5月の施設内研修「緊急時の対応」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、「高齢者施設職員のための新型コロナウイルス感染対策」のDVDを各セクションに配布し学習。6月の施設内研修においても臨時で「感染予防対策について」の内容をもとに看護係から説明、注意喚起を実施。11月には「感染予防対策(インフルエンザ等)」について研修。感染症対策委員会は年5回開催し、毎回感染症対策に関して検討し対策を練っている。3月にはこの度の蔓延を踏まえ、評価と反省、今後の更なる対策について研修会、対策会議を臨時で開催した。

### (3) 床ずれゼロの推進

- ① 各種発見等の活用により早期発見に努め、必要に応じて嘱託医と連携を図り治療を行うことで、早期治癒に繋がっている。
- ② 介護、医療、各委員会との連携により、早期治療に繋がっている。  
床ずれ発生者8名のうち、4名が完治できた。1名は継続治療中となっている。3名につ

いては、治療中に入院となり退所となった。

#### (4) 協力歯科医との連携による口腔ケアの充実

- ① 協力歯科医による定期的な歯科健診、口腔内のモニタリングを行うことで、適時要治療者には治療を行いながら、個々に合わせた口腔ケアを行うことにより、口腔内の健康管理に努めることができた。また、特養全体に対しての助言や質問に対する返答も随時頂けている。
- ② 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、食と健康を考える会主体の口腔衛生管理に関わる助言や口腔内健診の機会が年6回にとどまったが、スムーズな経口摂取に対してモニタリング、検討を行うことで歯科医に相談しやすい体制は引き続き整備されている。

#### (5) 看取りケアの充実

- ① 嘱託医、各専門職との連携を図ることで、10名の利用者の看取りサポートができた。
- ② 嘱託医を中心に多職種連携により終末期を的確に見極め、その人らしい最期を迎えられるよう、本人、家族の意向を尊重し、看取りサポートができた。嘱託医からの相談や説明についても、その都度本人や家族に希望等を確認し、必要に応じて対応している。
- ③ Webによるターミナルケア研修の内容をもとに、エンゼルケアの内容について今一度見直すことで、スキルアップに繋がった。

#### (6) 機能訓練計画の策定と実施

- ① 個別機能訓練計画書は、3ヶ月毎に評価と見直しを実施した。利用者の心身の変化があれば、都度計画書の見直しを行っている。

機能訓練計画書 更新件数	1階フロア	2階フロア	3階フロア
	71件	93件	60件

- ② 多職種が相談し検討を行うことで、利用者個々に合った計画の策定、実施を行うことができた。

## 11 リスクマネジメント委員会

### (1) 危険予測、事故事例の情報集約と統計分析

- ① リスクマネジメントについて、情報集約力の強化を目指し、事業所毎の全体集計をとることで、様々なセクションの事例を共有することで、あらゆる視点から認識することができた。特にひやりハット報告や気づき報告等、事故に至らない軽微なものは、報告書を集約し統計をとることで事故予防に努めたが、昨年度に比べ各種発見報告が86件減、ひやりハット報告が34件減、気づき報告が82件減と全体的に報告数が減少していることが課題となった。職員の意識改革等が必要かと考える。

各種発見	471件	ひやりハット	117件	気づき	222件
------	------	--------	------	-----	------

- ② 各部署ごとの会議を毎月1回行い、事故報告書等の分析と個別ケア検討を実施することで再発防止に努めた。また、リスクマネジメント委員会も毎月行うことで、法人内での情報共有に繋げることができた。事故件数(市への報告事故)は11件であった。

③ 気づき力の強化を目指し、リスクマネジメントをテーマに令和4年2月度、施設内研修を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、研修としては中止となった。今年度はKYT(危険予知トレーニング)シートを活用できなかったため、来年度以降、確実な形で活用できるよう工夫したい。

#### (2) 安全性の向上

① 福祉機器の定期安全確認として、車いす等の移動機器について各セクションで引き続きデータ管理することにより安全性向上に繋がっている。また、ベッドの更新(15台)、移乗用ボードを新規で3台、移乗用シートを1つ購入したことで利用者及び職員にも安全な移乗に繋がった。

### 12 身体拘束ゼロ委員会

#### (1) 身体拘束ゼロの推進

- ① 法人として身体拘束ゼロは継続して実施しており、事故リスクの軽減に努めている。「リスクマネジメント委員会」においても、積極的な課題解決を実施している。各委員が各セクションに内容を持ち帰り、職員全体に周知を図っている。更に各部署で不適切ケア防止策を話し合うことで尊厳に対する配慮、高齢者虐待防止を図っている。
- ② 「不適切ケア」の根絶に向けて法人全体として意識の統一を図った。各セクションの会議内において、研修会を実施することで理解を深め、日常のケアを振り返ることができた。10月、12月には「不適切ケア防止」をテーマに認知症ケア委員会及び排泄委員会が中心となり施設内研修を開催し、職員の意識づけの強化を図った。また、各セクションごとに不適切ケア防止対策目標を設定し、定期的に評価することで課題解決や意識づけに努めた。
- ③ 委員会は年4回開催予定であったが、予定月の2月度は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止となり、年3回の開催となった。
- ④ 施設内研修は年2回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、10月の開催のみとなった。

### 13 感染症対策委員会

#### (1) 感染症予防対策の強化(インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルス等の対策)

- ① 施設内研修に関して、年2回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け今年度は開催できなかったが、新型コロナウイルス感染症に関する情報や資料、厚労省よりの「介護現場における感染対策にのり引き」や「感染対策マニュアル」を各部署に配布し、情報の共有を図った。
- ② 職員や来館業者に関しては手洗いや手指消毒、マスク着用、検温の励行を例年以上に徹底した。家族等に関しては来館制限を行ったため、リモート面会を実施した。
- ③ 感染流行時には、日常の健康管理の報告(聞き取り等)や同居家族への健康状態把握も行き、持ち込まないへの徹底を行った。
- ④ 淡路島圏域等における感染症流行時の対策を強化するため、インターネットの速報確認や行政、他事業所等の協力を得ながら早期の情報収集に努めた。

- ⑤ 必要物品(マスク、手指消毒液、加湿器等)の適切な備蓄と活用に関しては、一時期納入が出来ない物品があり、納入に困難が生じた。行政からの補助等や他施設の協力もあった。備蓄に関しては、感染時のリスクも想定し在庫数(3ヶ月分)を確保しておく必要がある。
- ⑥ 利用者の健康管理については嘱託医、看護係が中心となり多職種協働により実施。変化があれば、迅速に各専門職に相談する体制を整えている。職員についても各セクションにおいて相談経路を明確にし、マニュアルに沿って健康管理に努めている。新型コロナウイルス感染症対策として、職員は毎出勤時に検温を実施し体調管理をしている。また、職員の島外への外出状況を把握するために「職員外出届出書」の提出を求めている。
- ⑦ 室内の温度管理や換気は徹底して行った。大型加湿器は、10月～3月まで活用しフロアの温度・湿度の調整をした。

#### (2) 感染症発生時の対策強化

- ① 高熱や症状等により利用者の感染症が疑われる場合は、適時個室や静養室への居室変更を行うことで感染症蔓延防止に努めた。また、隔離部屋の統一と職員の行動マニュアルを作成している。
- ② 感染予防マニュアルは各セクションに設置している。今回の感染症クラスターにより、今以上に使いやすいマニュアルが必要と感じた。今回の経験を活かし作り上げていく。
- ③ 感染症が発生した場合は、関係機関への報告が迅速にできた。今後の課題としてSNS等を活用しての報告や職員への一斉連絡方法が課題となった。

### 14 災害対策委員会

#### (1) 施設における業務継続計画(BCP)への取り組み

- ① 身体、生命の安全確保と責務  
業務継続計画の作成中である。

#### ② 地域との連携強化

コロナ禍のため、地域との連携を図ることができなかった。

#### (2) 防災マニュアル等の見直しと実施。

緊急連絡網の活用について検討し見直しを行った。

### 15 栄養管理委員会

#### (1) 健康保持増進への対策

- ① 新型コロナウイルスの影響により3月は中止となり、年間5回の開催となった。

委員会では食事に対する意見や行事についての情報を共有した。

食器や使用具、栄養補助食品の個別対応者が多いことで、委託業者からの要望を受け、食事提供しやすいように「食と健康を考える会」と連携して、食事連絡票の見直しを行い改訂した。

- ② 利用者や職員からご意見帳や口頭で食事に対するご意見を伺い、おかずの固さについての要望が多いことから、食べやすく軟らかい食事を提供できるよう食品の切り方、大きさを工夫した。

#### (2) 食を楽しむ計画作成

- ① 新型コロナウイルスの影響により行事の中止、変更があった。緑風納涼祭、もちつき会は中止となった。行事食は委託業者と計画し、年間10回提供することが出来た。中止となったふれ

あい食事会に変わり『美食ランチ』を実施するため、「食と健康を考える会」を通して利用者の希望を取り入れたメニューを考え、提供することができた。

喫茶コーナーは4月から1月まで毎月各フロアで喫茶コーナーを実施した。

新型コロナウイルスの影響でボランティアに参加してもらえたのは4月・10月・11月・12月のみとなった。

(3)施設食基準表の見直し

① 貧血食の対象者が増えてきたため、2021年4月からの施設食事基準表に貧血食を追加し、その後ゼリー食形態の貧血食も対応できるように改正した。

## 16 看取りケア委員会

(1)看取りケアの充実

① 委員会活動は年4回開催実施(回覧)する事が出来た。多職種共働のもと連携が行えるように「終末期におけるケア」を見直し更新する事が出来た。嘱託医へ情報提供を行い終末期への体制を整えた。

② 偲ぶ会では、看取りケアのあり方と家族との絆について今一度考える機会となった。意見交換を行うことで、今後のより良い看取りケアに繋げている。今年度は10名について偲ぶ会を開催することができた。

③ 新型コロナウイルスの感染防止対策の為、施設外研修は全面中止となり、また施設内研修も感染防止の為、開催は行えなかった。回覧により、情報交換や意見交換を行い資質向上に努めた。リモート研修への積極的な参加を検討した。

① 静養室へ、パーテーション・ソファベッド・アロマ加湿器を導入することが出来た。

静養室の整備により、家族が宿泊する機会が増えた。

令和3年4月～令和4年3月まで施設で最期を迎えられた人の居所別

場所	居室	静養室	個室
人数	7	2	1

## 17 食と健康を考える会

(1)安全且つ快適な食事環境への整備

① 毎月、身体状況表の見直しを行い、個々にあったオーバーテーブルや車いす用のテーブルを検討し使用した。

② 個々にあった食器、自助具の見直しを行った。個々に適したスプーンの導入により、安全面に配慮ができた。

③ 個々に合った椅子やテーブルを使用することで、安全に食事ができる環境ができた。

(2)協力歯科医師との連携による口腔ケアの実施

① 定期的な健診(モニタリング)を実施した。

健診件数は、1階フロア10件・2階フロア21件・3階フロア8件であった。

② 個々に合った口腔ケアの見直しや疑問点等を歯科医師の助言を基に実施・解決した。

(3)食事ケア・口腔ケアにおける質の向上

- ① 外部研修(リモート)に1回参加し、委員会内で情報共有し、各フロア職員にも周知した。
- ② 10月に食事関連に関する活用方法の見直しを実施し、各階で統一できるよう変更した。

(4) その人らしさの追求と尊厳への配慮

- ① 毎月、委員会にて食事用エプロンの見直しを行った。個々の検討を行うことで必要、不必要の確認と整理ができた。
- ② 食事については、利用者個々に合った食事形態や自助具に変更し、食べやすい環境を提供した。口腔ケアについては、自身で歯磨きができる利用者は洗面所へ案内し、できない利用者は職員が手伝い口腔ケアを勧めることで健康維持に努めた。

## 18 排泄委員会

### (1) 快適な排泄環境の実現

- ① 利用者に応じた排泄用具の検討、導入(定期尿量測定の実施)を年2回実施することで、毎月の見直しにより24名の利用者の排泄用具を変更した。
- ② 紙パンツから下着(コットンパンツ)へ11名の利用者が見直しを行い快適性に配慮できた。

### (2) スムーズな排便への取り組み

- ① スムーズな排便への取り組みとして、健康補助食品やサプリメント、乳製品の情報収集、検討、試行を実施してきた。今年度は33件の事例検討をした結果、13名の利用者にも効果が表れた。

#### スムーズな排便への取り組み実施件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4
2階	0	3	1	2	3	3	4	2	1	1	1	1	22
3階	0	1	1	2	0	0	0	1	1	0	0	1	7

### (3) 自立支援を踏まえた排泄ケアの実施

- ① 安全且つ統一された排泄介助の代替ケアを検討し、実施する事で年間4名の利用者についてトイレが可能となった。
- ② 個人別排泄留意表の作成、更新を毎月行いながら、排泄用具や排泄ケア内容等の整合性を確認できた。

### (4) 排泄ケアの知識向上

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、研修や業者による勉強会等はできなかったが、12月に資料を用いてのグループワークによる研修は実践できた。
- ② 関連性のある他の委員会との合同研修会等は実施できなかった。
- ③ リモートワークによる業者や外部研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施には至らなかった。委員会内で排泄時の言葉かけについて研修をした。
- ④ 排泄用具の検討を行ったが、コスト面が合わず導入には至らなかった。

### (5) コストの削減

- ① 各フロアの排泄委員が中心となり、排泄用具が適切に使用されているかを介助時に確認している。また排泄表の更新を毎週実施している。排泄用具の見直しや試行観察も適時、実

施している。

- ② 毎月、排泄委員長と業者が連携を図り在庫管理を実施し、使用量の把握をしている。業者との報告、連絡、相談はメールを通じて行っているので迅速な対応が可能となっている。パッドやパンツ等、委員と業者で使用量を情報共有することでコスト面を意識できている。
- ③ タブレット入力によるデータ管理化への移行を検討していたが、コロナ感染症の影響により、会議等が行われず実施には至らなかった。来年度への課題となった。

#### (6)感染予防の徹底

- ① 排泄時の手指消毒について、再度各階に指導を行い周知する。
- ② 手袋の交換による感染予防の徹底についても、再度周知を行う。
- ③ 排泄用具の清掃についても、排泄終了後に毎回清掃と消毒を行った。

## 19 入浴委員会

### (1) 安心、安全への配慮

- ① 6月と12月に大掃除を実施し、普段洗えていない場所の清掃を行った。高圧洗浄機等を使用することにより、排水溝やタイルのカビ清掃をスムーズに実施することができた。
- ② 入浴に関するひやりハットや気づき報告(電灯の消し忘れや補充不足、掃除不足等)に対して、委員会内で今後の対策を検討し、各セクションへの報告を行った。
- ③ 浴室、脱衣室内の環境整備については適時整備に努めた。中間浴槽の導入について、以前と類似した型にすることで、スムーズな対応と安全面に配慮できた。
- ④ 物品の故障や破損等があった際には、適時業者に修理依頼した。また、委員会が中心となり点検や物品購入を行い、在庫切れや不備のないよう取り組めた。

### (2)入浴ケアの統一化と充実

- ① 曜日別入浴表については毎週、貴重品所持者一覧表については随時変更をした。個別入浴ケア方法については、年4回の更新を行った。新規利用者、状態変化時には、速やかに定期更新書類の変更を行い、統一したケアに努めた。

### (3)「お風呂が楽しみ」への追及

- ① 5月と10月に入浴に関するアンケートを実施した。好みの湯温や入浴に関する希望を聞き取ることで、個々に応じた快適な入浴に繋げることができた。
- ② 5月から3月まで毎月、季節湯を実施した。季節の果物等を使用することで、季節を感じてもらえたり、会話も弾み楽しんでもらった。
- ③ 入浴アンケートに基づいた音楽や室温への配慮を行った。また季節湯の実施日以外は入浴剤を使用し、快適な入浴に繋げるよう努めた。
- ④ 足浴機器の導入を検討したが、従来の足浴機器を使用した為、導入には至らなかった。

### (4)知識向上への取り組み

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、外部研修や展示会への参加はできなかった。委員会内で8月に新型コロナウイルス感染症対策についての勉強会を行うことで、感染症対策に配慮した入浴支援に繋げることができた。



## 20 認知症ケア委員会

### (1) 認知症に対する理解力の向上

- ① 委員会内で研修会を開催し、4大認知症(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、脳血管性認知症)や認知症に対するお薬や精神薬等について、改めて深く掘り下げ、理解することができた。各セクションにも発信し理解が深まった。
- ② BPSD(認知症の行動・心理症状)について改めて理解するために委員会内で研修会を開催した。これにより、認知症に対するケアの在り方を再認識することができた。

### (2) 認知症ケアの充実

- ①② 各種セラピーの効果について研修会を開くことで理解を深め、各セクションで実施した。

セクション	セラピー種別	対象人数	効果
1階フロア	熱帯魚の飼育	全員	○
2階フロア	園芸療法	6名	○
3階フロア	アートセラピー	1名	○
デイサービス	園芸療法	全員	○
みどりの家	めだかの飼育	全員	○

- ③ 特養入所のみ実施。

1階フロア	4名	2階フロア	6名	3階フロア	3名
-------	----	-------	----	-------	----

結果、生活リズムを観察、分析することで夜間の不眠や、精神状態の安定、服薬の見直し等効果がみられた。

### (3) 認知症ケアに対する振り返り

- ① 各セクションにおいて言葉かけ・不適切ケアへの課題と対策について毎月評価し取り組んだ。職員一人ひとりの意識が大切なことを実感した。
- ② 施設内研修において「不適切ケアについて」をテーマにグループディスカッションを実施。意見交換をする中で、普段のケアの振り返りとケアの見直しが図られた。また、高齢者虐待予防に向け、不適切ケアの再認識とともに意識の統一にも繋がった。

## 21 環境を考える会

### (1) 安心、安全、快適性の追求

- ① 新しい生活様式への柔軟な対応
  - ・食事テーブル席の人数制限を行った。・消毒は適時行える環境を整えた。
  - ・クラブ活動や送迎車内で距離をあけた。・パテーションを設置して空間を仕切った。
  - ・密にならない居場所(ソファ)の配置。
- ② キャプションシート(環境評価シート)を活用し、他のセクションの評価を行い、各セクションの良いと感じられるところ、悪いと感じられるところ、不思議だと感じられるところを各委員の違った視点からとらえることができた。結果、環境の改善に繋げることができた。

〈1階〉 6ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

他の置き場がない為、ラティスを使用して、  
収納場所として使用することにする。

〈2階〉 6ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

乱雑に置かれていた物品等を整理整頓し、  
カーテンで区切る事により、フロアから見え  
なくなり、落ち着いて過ごしてもらえる環境  
になったと思われる。

〈3階〉 1ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

机の高さが変わり、食べやすくなったり、広  
くなったので窮屈さが緩和され喜ばれている利  
用者がいた。

〈デイ〉 4ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

記入場所を変更して、利用者の状況を確認  
する。特養の職員との接触の機会が少なく  
接触事故の危険性も低くなった。

〈事務所〉 4ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

パンフレットを置いている棚の位置を、玄関  
前に変更することで、来客者に見てもらい機  
会が増え、パンフレット等を手に取りやすい  
環境になった。

## 〈みどりの家〉 合計2ヶ所

### 《改善前》



### 《改善後》



### 《改善後の状況》

足で踏み開閉のできるタイプにごみ箱を変更することで感染予防に配慮できた。

- ② キャプションシート(環境評価シート)を活用し、良い・悪い・不思議と3段階で評価し、各委員の違った視点からとらえることができた。結果、環境改善に繋げることができた。

## (2) 環境アプローチの質の向上

- ① 他施設の見学や外部研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により、行うことができなかった。
- ② 環境コンテストの実施では、「利用者の笑顔につながっている環境」と題して、各セクションで写真とコメントをいれて掲示し、全職員による投票により、優秀作品を決定した。環境への取り組みについて、全職員が関心と自セクションで取り入れようとする意識ができた。

## 22 ポジ・トラ委員会(ポジショニング・トランスファー委員会)

### (1) 利用者の安楽な姿勢や活動しやすい姿勢の保持

- ① ポジショニングやシーティングについて外部研修資料やガイドブックを参考にしながら、ディスカッションすることで理解を深められた。また、これらを踏まえて実践する事ことで、安楽な姿勢保持に繋げる事ができた。
- ② ポジショニングシートについては7件のケースについて活用することで、拘縮予防や床ずれの予防に繋げるためのケアを確立することができた。
- ③ シーティングシートについては、6件のケースについて活用。車いすや椅子での姿勢の安定に繋がった。

### (2) 床ずれの早期発見と予防、治療

- ① 6月に床ずれが出来る原因と予防策、医療との連携について研修会を開催した。除圧の仕方や発赤判定シートを活用した皮膚の状態を早期に把握する事ができた。
- ② 試用用クッションを何種類か用意し、本人にあった福祉用具を選定した。また、ケアの統一が図れるよう福祉用具を使用中の写真をベッドサイドに掲示した。

### (3) 利用者や職員への負担軽減

- ① 移乗用リフト使用の定着を図るため、説明書を基に個別指導し介護者が全職員が介助時に使用している。移乗用リフトの使用対象者6人に活用する事で、あざの予防に繋がった。
- ② コロナ感染拡大により福祉展示フェアの開催が中止となり参加ができなかったが、福祉用具業者から最新の介護用具等の情報を聞き取り、クッションを購入した。

## 23 広報委員会

### (1) 地域に向けた定期的な広報活動

- ① 緑風会の財務状況、機関紙緑風だより、施設の情報を随時更新した。
- ② Facebook・Instagram・YouTubeに年間行事や施設内研修、日々の生活等を投稿した。
  - ・Facebook 46投稿
  - ・YouTube 15投稿 チャンネル登録者103人
  - ・Instagram 34投稿 フォロワー数 53人
- ③ 緑風だよりを年3回(8月、12月、3月)発行し、利用者・家族・他事業所・地域の方に配布した。

### (2) パンフレットのデザイン変更

- ① デザイン業者を選定しパンフレットを作成中。

### (3) 施設内における写真の展示

第2回緑風会フォトコンテストを開催。21作品の応募があり職員・利用者・理事投票と館長・広報委員会の審査で各賞を決定した。



金賞

「仲睦まじく」



銀賞

「70年来の友達 ずっと一緒」



銅賞

「睡眠へのつながり」



館長賞

「皆で食べる喜び」



広報委員賞

「つながった！」

## 24 衛生委員会

### (1) 職場環境における安全性の確保

- ① 4S活動については各セッションごとに年間目標を立て実施した。
- ② 労働災害については「作業環境」「作業内容」「疾患等罹患リスク」について委員会で検討し、対応策を実施することで予防に繋げることができた。今年度の労働災害は1件あり、委員会内で事故内容について検討した。
- ③ 施設内の床材等、劣化や破損している箇所については、昨年の補修箇所を参考にし、補修等の必要性がある箇所を最優先に実施した。

### (2) 職員に対する心身の健康管理

- ① 年2回健康診断を実施し、有所見者には2次検査受診を勧めることで、職員の健康維持に努めた。
- ② 年1回、全職員(78名)トレスチェックを行い、今年度は14名の高ストレス対象者という結果であり高ストレス者対象者については、いつでも産業医に助言してもらえる体制をとって対応した。メンタルケアについても委員会内で話し合い、各セクション内で回覧できるよう工夫した。
- ③ 腰痛予防について、年1回、腰部保護ベルトの使用状況調査を行い、腰痛者を把握し産業医の意見をもと改善に努めた。腰部保護ベルト使用率は前年度45.78%に比べ、今年度は3.03%増加した。腰部保護ベルト使用者は下記参照。

	常用	頻繁	痛い時	ほとんど未使用	夜勤時のみ	未使用	使用率
腰部保護ベルト使用者数(総数83名)	10名	3名	21名	5名	2名	40名	48.80%

- ④ 感染予防対策については4S活動と連動し、職場内を清潔にすることとしていたが、具体策として活動されているか不明瞭な箇所もあった。

## 25 地域交流委員会

### (1) 地域住民との交流

- ① 各地域老人会や各種団体の行事への参加(地域の祭り、梅まつり等)

参加日	内容	職員参加人数
5/8	近隣清掃	13名
7/18	近隣清掃・神事参加	11名
11/13	近隣清掃	6名
3/6	広田梅林手伝い	2名
3/11	広田梅林後かたづけ	2名
3/19	清掃・神事参加	5名

上表の通り、合計39名の職員が携わることで、不藤・広田南地区をはじめ、緑地区の住民との積極的な交流を図れた。コロナ禍のため、感染予防に努め交流する機会をもった。

- ② 出張講座、介護者教室の実施

月日	各種団体名	内容	職員参加人数
12/23	徳中なかよし会	介護予防について	1名
1/21	山添なかよし会	フレイルについて	1名

コロナ禍であったが、感染予防に努め、2件実施できた。

### (2) 地域支援

- ① ウエルシア広田店のウエルカフェを利用し、介護相談会を実施した。

12/15(水)、16(木)、1/15(土)に開催。

- ② 地域サポート施設活動として地域高齢者の見守りとして、13人に実施した。

見守り訪問は、年延べ87件(ゴミ出し47件)、外出支援(医療機関への付き添い・買い物付き

添い・金融機関、市役所等)は、年延べ131件、安否確認(電話)は、年延べ421件実施した。

- ③ 不藤、広田南地区の方中心に毎週木曜日9時30分から1階食堂を開放していたが、コロナ禍のため中止していた。

(3) 社会福祉法人としての公益性の遂行

- ① コロナ禍の影響により、各法人の行事縮小や中止により、生活困窮者等への相談窓口として相談ブースの設置ができなかった。
- ② ほっとかへんネットの実務担当者会議を3回開催し、今後の活動について話し合った。

## 26 入所検討委員会

(1) 緊急性、必要性の高い人へのスムーズな入所検討

- ① 委員会は毎月開催し、緊急性や必要性を鑑みて検討する。

(名)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所待機者	62	64	64	65	63	59	61	64	60	61	62	61
新規申込者	4	4	1	5	1	1	3	5	4	3	0	3
申込取消者	4	2	1	4	3	5	1	2	8	2	0	4

- ② 年1回(2月)の状況を確認は、感染症蔓延の為、実施できなかった。(R4年4月に実施)
- ③ 7月に南あわじ市・洲本市・淡路市に情報調査票を報告した。

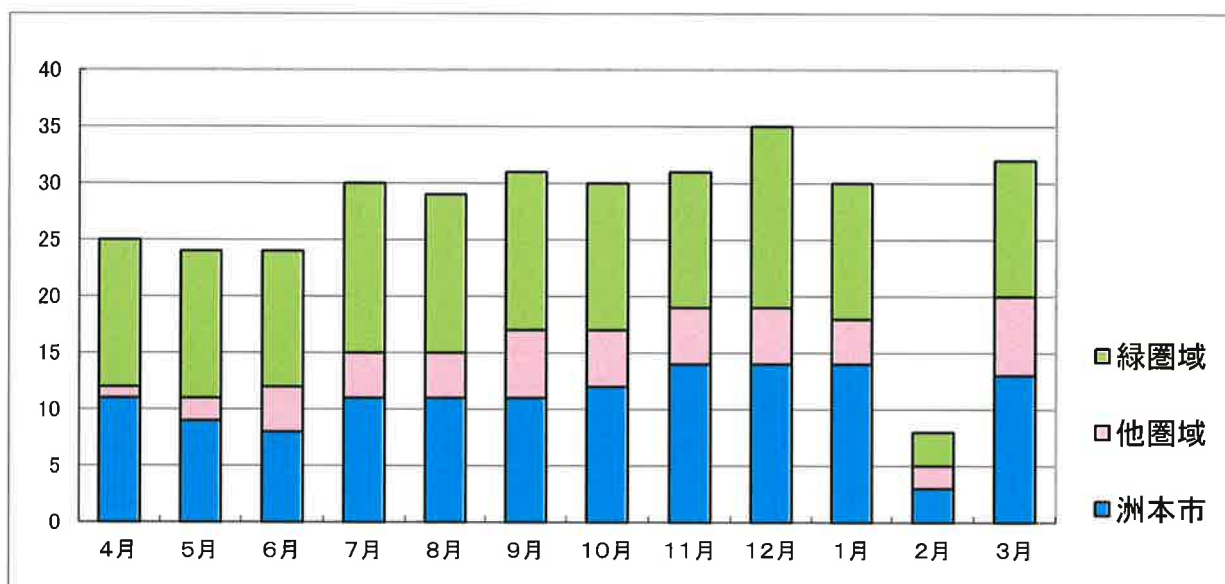
### Ⅲ 短期入所生活介護事業

#### 1 施設 の 概 要

- 〔1〕 名 称            特別養護老人ホーム 緑風館
- 〔2〕 所 在 地        兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕 開 設            平成6年6月20日
- 〔4〕 設 置 運 営      社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕 定 員            10名

#### 2 市町別利用状況

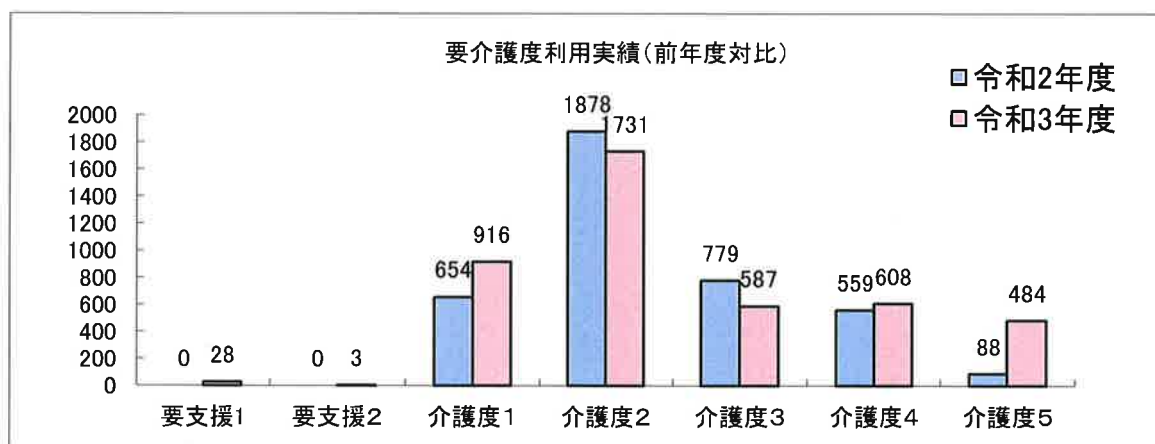
区分		令和3年度												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
南あわじ市	緑圏域	実人数	13	13	12	15	14	14	13	12	16	12	3	12	149
		延人数	130	179	181	199	222	231	184	163	173	135	43	103	1943
	他圏域	実人数	1	2	4	4	4	6	5	5	5	4	2	7	49
		延人数	9	34	47	32	39	59	74	80	40	58	52	132	656
洲本市	実人数	11	9	8	11	11	11	12	14	14	14	3	13	131	
	延人数	132	124	113	159	158	150	153	162	203	164	84	156	1758	
実人数合計		25	24	24	30	29	31	30	31	35	30	8	32	329	
延人数合計		271	337	341	390	419	440	411	405	416	357	179	391	4357	



### 3 要介護度別利用実績

区分		2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	人	0	1	1	0	1	1	0	0	0	2	1	0	0	7
	延	0	4	2	0	7	6	0	0	0	7	2	0	0	28
	平均	0.0	4.0	2.0	0.0	7.0	6.0	0.0	0.0	0.0	3.5	2.0	0.0	0.0	2.0
要支援2	人	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
要介護1	人	54	4	7	8	8	7	8	5	5	4	4	1	6	67
	延	654	83	108	122	104	82	102	61	59	56	47	28	64	916
	平均	12.1	20.8	15.4	15.3	13.0	11.7	12.8	12.2	11.8	14.0	11.8	28.0	10.7	13.7
要介護2	人	142	11	10	9	11	12	12	10	11	13	10	4	13	126
	延	1878	108	141	129	139	166	152	124	157	170	149	112	184	1731
	平均	13.2	9.8	14.1	14.3	12.6	13.8	12.7	12.4	14.3	13.1	14.9	28.0	14.2	13.7
要介護3	人	67	5	2	2	3	3	5	8	9	9	8	0	9	63
	延	779	25	5	4	11	36	66	98	107	109	50	0	76	587
	平均	11.6	5.0	2.5	2.0	3.7	12.0	13.2	12.3	11.9	12.1	6.3	0.0	8.4	9.3
要介護4	人	39	2	2	2	3	4	4	3	3	4	4	2	2	35
	延	559	38	37	38	75	82	75	68	40	45	67	15	28	608
	平均	14.3	19.0	18.5	19.0	25.0	20.5	18.8	22.7	13.3	11.3	16.8	7.5	14.0	17.4
要介護5	人	13	2	2	3	3	2	2	4	3	3	3	1	2	30
	延	88	13	44	48	51	47	45	60	42	29	42	24	39	484
	平均	6.8	6.5	22.0	16.0	17.0	23.5	22.5	15.0	14.0	9.7	14.0	24.0	19.5	16.1
合計	人	315	25	24	24	30	29	31	30	31	35	30	8	32	329
	延	3958	271	337	341	390	419	440	411	405	416	357	179	391	4357
	平均	12.6	10.8	14.0	14.2	13.0	14.4	14.2	13.7	13.1	11.9	11.9	22.4	12.2	13.8

※ 人(実人員) 延(延べ利用日数) 平均(ひとり当り利用日数)





## IV 通所介護事業

### 1 施設の概要

[1] 名 称	緑風デイサービスセンター
[2] 所在地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
[3] 開設	平成6年7月1日
[4] 設置運営	社会福祉法人 緑風会
[5] 利用定員	35名

### 2 利用者状況

#### ① 地区別利用者数（登録者数）

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
南あわじ市	広田広田	5	5	5	5	5	5	6	6	7	8	8	8
	広田中筋	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	山 添	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	中条中筋	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	7
	中条徳原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	中条広田	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	倭文庄田	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2
	倭文長田	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	倭文土井	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	倭文安住寺	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	2
	松帆地区	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2
	市地区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	榎列地区	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3
八木地区	1	1	1	1	2	2	2	3	2	2	2	2	
洲本市	前平・木戸・池内	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	宇 原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	大 野・金屋	4	4	4	4	3	3	3	4	4	3	3	3
	鮎 屋	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	4
	千 草	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
	納	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	物部地区・海岸通り	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	4	4
	内膳・加茂・宇山	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4
鳥 飼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
計	61	61	62	63	62	63	64	67	67	65	66	69	

#### ② 年齢別利用者状況（令和4年3月31日現在）

区分	60歳代	70～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計
支援	0	0	3	5	7	15
介護	1	3	10	13	27	54
計	1	3	13	18	34	69

### 3 生活相談員

#### (1) 在宅生活の継続支援

- ① 送迎時や電話連絡にて、在宅での状況を確認し、家族と情報共有を行った。
- ② ケアマネジャーからの依頼にて、担当者会議に参加し、情報共有を行った。  
 コロナ禍の為、書類での情報提供も多かった。利用者の状況の変化があった際には、担当者会議を依頼し、利用事業所との情報共有を行い支援した。
- ③ 利用時やケアプラン等で、ニーズの把握を行い支援を行った。

#### (2) 利用率90%以上の達成と継続維持

- ・平日目標29名に対して、目標達成率81%（1日平均23.7名）
- ・土曜日目標12名に対して、目標達成率75%（1日平均9名）

令和3年度 実人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数	22	22	22	22	26	26	26	26	25	20	0	27	264	
新規	要支援	0	1	0	1	0	0	0	2	0	2	0	2	8
	要介護	2	0	1	0	3	1	3	2	1	0	0	0	13

令和3年度 実利用者数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	実	5	5	5	6	6	6	6	5	5	6	0	5	5.0
	延	19	24	28	27	26	28	24	26	25	22	0	22	22.6
要支援2	実	6	7	7	7	7	6	6	7	7	8	0	7	6.3
	延	31	45	42	48	38	50	47	51	49	38	0	43	40.2
要介護1	実	25	24	25	22	23	23	21	23	23	23	0	23	21.3
	延	205	251	238	213	207	203	187	204	209	157	0	232	192.2
要介護2	実	16	16	15	16	17	17	18	19	19	17	0	15	15.4
	延	164	209	191	204	221	220	219	241	238	173	0	171	187.6
要介護3	実	3	3	4	5	5	5	5	7	8	7	0	8	5.0
	延	43	53	50	78	78	75	59	81	81	56	0	74	60.7
要介護4	実	4	4	5	5	4	4	4	3	3	3	0	3	3.5
	延	30	37	40	44	34	38	40	28	22	18	0	21	29.3
要介護5	実	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8
	延	3	2	5	4	4	5	4	4	5	2	0	0	3.2
総合計	実	60	60	62	62	63	62	61	65	66	65	0	61	57.3
	延	495	621	594	618	608	619	580	635	629	466	0	563	642.8

開所日数	264	1日平均	24.3
------	-----	------	------

- ① 介護報酬改定内容を理解し、機能訓練加算 I 2の取得を行った。
- ② 担当ケアマネジャーへは、毎月訪問し、利用実績と担当利用者の状況を写真入りで報告した。
- ③ 入院・利用休止者には、電話連絡やご自宅への訪問、ケアマネジャーに状況を確認した。
- ④ 個々に応じて半日利用や入浴のみ、短時間利用を調整した(10名)
- ⑤ 利用者のニーズに合った対応として、8月から土曜日開催を行った。  
体験利用をして新規利用につながった結果は、10名のうち10名であった。
- ⑥ キャンセルの連絡時には、内容を確認し、訪問や再度連絡を行った。

(3) 専門職としての資質向上

- ① 月1回、デイ会議を開催し、全職員で利用者の支援や業務について意思統一を図った。
- ② 施設内研修の開催は少なかったが、書類等での情報収集・共有を行った。
- ③ 認知症基礎研修の受講は行っていない。
- ④ 新型コロナウイルス等の感染症予防・対策について感染予防委員会で情報収集を行った。
- ⑤ 個別シートにて、個々の年間目標を設定し、達成に向けて前期後期の2回面談を行った。

## 4 介護係

(1) 自主活動・自立への支援

- ① 利用者自身に役割を担っていただくことで、在宅生活が継続できるよう意識づけをし、心身の機能維持に繋げた。(食事の配膳、おしぼり配り、おやつ準備、おしぼり巻、コーヒーの準備等)利用者ご自身も自主的に参加している。



コーヒー準備



食事の準備

- ② 利用者や家族と情報交換を行い、クラブ活動への参加、役割を担って頂くことで心身の機能維持や家族の負担軽減を支援した。
- ③ 利用者が作業しやすいテーブルや鏡の高さ、表示など環境を整備し、行動しやすい環境を整えた。



おやつ準備



ドライヤーかけ

- ④ 個々の生活や得意分野を把握し、利用者が意欲をもって考えて行動することで、日常生活動作(ADL)の維持と認知症の進行予防の支援を行った。
- ⑤ 利用者自身の持つ力を活かしながら、ゆっくりと入浴できるように支援した。  
感染予防対策として、浴室に入る利用者の人数を制限して対応した。

その日の状態に応じ一般浴と中間浴の利用を検討し、安心して入浴できる体制をとった。

入浴時間は午前と午後に分け、入浴剤やゆず湯など、リラックスできる環境を継続した。

- ⑥ 季節にあった行事食や、自施設で育てた農作物を使った旬の食べ物を提供できた。
- ⑦ 毎食前の嚥下体操、毎食後の口腔ケアを継続した。
- ⑧ 感染予防対策として、座席数を制限し対応した。安全に過ごせるように、環境に配慮した。継続して、パテーションやカーテンなどを設置し、プライバシーへの配慮を行った。



## (2) 衛生管理・感染予防

- ① 職員は、出勤・退勤時、作業前に手洗い・消毒、出勤時の検温を行った。毎月の職員目標等にも感染予防の目標を掲げ、職員の意識づけを継続して行った。  
利用者にも、来館時、食事前等の手洗い・消毒の言葉かけをし実施した。
- ② 感染症対策委員会、地域の感染状況や対策について、常に情報収集し職員に周知した。

## (3) 社会参加への支援

- ① デイサービスを利用し役割を担っていただくことで、利用者自身の意欲向上、できることの発見と活気ある生活に繋げることができた。  
利用者から、「何かできることがあれば、言って下さい。」との声が多数、伺えた。
- ② 利用時には、職員や他の利用者と交流を図り、笑顔が見られた。  
久しぶりに会った利用者同士もあり、喜ばれる場面も見られた。
- ③ 活動の中で、雑巾を作ったが、コロナ禍の為、地域交流が行えず、寄贈できなかった。
- ④ 外出行事は、人との触れ合いを回避して実施。ドライブを通して、地域へ出向く事ができた。

## 5 機能訓練指導員

### (1) 利用者の心身機能の維持向上・自立支援

#### 個別機能訓練加算人数

#### 「要支援訓練加算」

運動器機能向上加算：225単位/月

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器機能向上	11	11	11	11	11	11	11	12	12	14	0	12	127

85単位/日

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
個別機能I口	実	49	48	50	47	49	50	49	53	54	51	0	49	549
	延	439	542	509	493	510	525	496	516	517	382	0	461	5390

- ① 職員が関わる中で、できることを見つけ取り組むことで、意識の向上・自立支援へ繋がった。
- ② 自分の意思でクラブを選択し、より自主的に楽しくクラブやリハビリ活動ができた。
- ③ 個々の状態、生活環境を把握し、座る・立つ・歩く等の身体機能が維持・向上できるよう訓練の実施をした。



歩行訓練



階段昇降

- ④ 調理や洗濯、掃除の活動、役割づくりを通して社会参加・心身機能の向上を支援した。



調理



洗濯物干し

- ⑤ 5人程度の小集団や個別での訓練を実施。



集団体操



屋外散歩

- ⑥ 加算取得について検討しているが実施できていない。

## 6 看護係

### (1) 利用者の健康管理

- ① 来館時、昼食時、おやつ前には、手洗い・消毒を励行し、感染予防に努めた。
- ② フロアに温度・湿度計を設置し、湿度が低い時には加湿器を使用し乾燥予防に務めた。
- ③ 慢性疾患による水分、食事制限者への継続対応、認知症テストによる早期発見を行った。

### (2) 感染予防対策

- ① 迎え時、来館時、昼食時、おやつ前、帰宅前には、手洗い・消毒を励行し、感染予防に努めた。また、不織布マスク着用と予備マスク持参を促した。
- ② リハビリ機器、クラブ活動道具、机や椅子など使用した物品は使用後に消毒を実施した。
- ③ 週1回、床を次亜塩素酸ナトリウム溶液で清掃した。
- ④ 毎日の利用者への感染予防協力の呼びかけを行った。今年度2回通知を利用者、家族に送付し、感染予防協力の啓発を行った。
- ⑤ 本人または同居家族において風邪症状や発熱がある、PCR検査等を受ける予定の場合は当事業所へ連絡していただくようにした。
- ⑥ コロナウイルスへの感染予防も含めて、体調不良時の対応フローチャートを作成し、家族へ周知した。また、送迎時には、体温測定・手指消毒の実施、玄関フロアで体温測定を実施した。

## 7 クラブ活動

クラブ活動は、利用者が選択できるよう、3メニュー用意し活動参加している。  
今年度は、感染予防対策を重視し、3密対策に注意して実施した



ぬいぐるみ落とし



グランドゴルフ



玉蹴り



工作



塗り絵



園芸

## 8 年間行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、外出行事の実施はドライブのみとなった。  
季節の行事は、利用者同士が密にならないように工夫して、実施した。



夏祭り



ドライブ



寿司パーティー



運動会



クリスマスウィーク



新年会

緑文化展への出品作品



裏庭で育てた野菜を調理して、食べました。



野菜の収穫



スイートポテト



ゴーヤチャンプルー



ぬか漬け

# V 小規模多機能型居宅介護事業

## 1 施設の概要

- 〔1〕 名 称 みどりの家
- 〔2〕 所在地 兵庫県南あわじ市広田広田424-1
- 〔3〕 開 設 平成21年4月1日
- 〔4〕 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕 利用定員 登録 25名 通い 15名 泊まり 9名
- 〔6〕 土地・建物 敷地面積 247.93㎡(借地)  
建物構造 鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建  
建物延面積 372.48㎡

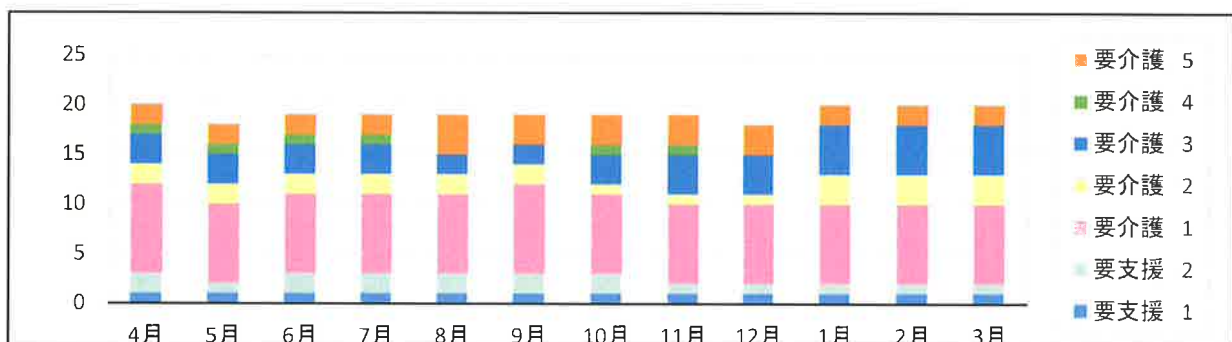
## 2 管理者

### (1) 目標登録件数の確保

#### ① 登録者22名(介護17名 支援5名)の確保

##### 【 登録者数 】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要支援 2	2	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1.5
合計	3	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2.5
要介護 1	9	8	8	8	8	9	8	8	8	8	8	8	8.2
要介護 2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	3	3	3	2.0
要介護 3	3	3	3	3	2	2	3	4	4	5	5	5	3.5
要介護 4	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0.5
要介護 5	2	2	2	2	4	3	3	3	3	2	2	2	2.5
合計	17	16	16	16	16	16	16	17	16	18	18	18	16.7
総合計	20	18	19	19	19	19	19	19	18	20	20	20	19.2



##### 【 サービス実績 】

サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所 (1日あたり)	367 12.2	370 11.9	386 12.9	411 13.3	409 13.2	405 13.5	403 13.0	390 13.0	395 12.7	413 13.3	419 14.4	466 15.0	403 13.2
宿泊 (1日あたり)	240 8.0	248 8.0	219 7.3	219 7.1	219 7.1	218 7.3	197 6.4	192 6.4	181 5.8	209 6.7	210 7.2	239 7.7	216 7.1
訪問 (1日あたり)	67 2.2	51 1.6	50 1.7	54 1.7	49 1.6	42 1.4	36 1.2	33 1.1	40 1.3	47 1.5	59 2.0	60 1.9	49 1.6
短期利用	0	0	0	0	7	0	16	21	23	0	0	0	67



## ② 事業所活動の情報発信

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域や各種団体、事業所への情報発信は思うように出来なかったが、地域ケア会議(7、8、12、1月)、山添なかよし会(8月11日)に出席し、事業内容、活動の紹介が出来た。

## (2) 施設サービスの充実

- ① 6月に職員2名、12月に職員1名が外部研修に参加出来た。
- ② 満足度調査は実施出来なかった。
- ③ コロナ禍で、年間6回の運営推進会議のうち、3回は書面報告にて実施した。写真を使用してわかりやすく活動報告した。
- ④ 四季折々の作品作りを多く取り入れた。施設内の展示個所を増やして季節感を演出した。
- ⑤ 地域ケア会議は、新型コロナウイルスの影響で会議が中止になる事が多く4回の出席のみとなった。
- ⑥ 新型コロナウイルスの影響で、小中合同避難訓練、地域の防災訓練は参加できなかった。
- ⑦ 地域ボランティア、集いの場の提供は、感染拡大防止対策の為、受け入れることができなかった。

## 3 介護支援専門員

### (1) 24時間、365日その人らしい暮らしへの支援

- ① 地域資源を把握、理解することで住み慣れた自宅や地域での生活を支援することが出来た。
- ② 食事、入浴のみの通いサービス利用(出来るだけ自宅に居たい方)や、認知症で薬の服薬が出来ない方の服薬確認の訪問など、ライフスタイルに合わせた支援ができた。
- ③ 入院時には、入院に伴う介護情報提供書を迅速に医療機関に提供(3件)ができた。
- ④ 新規利用者や状態変化した利用者とのカンファレンスを実施した。

## 4 看護係

### (1) 感染症の発生・まん延予防

- ① 新型コロナ感染症対応フローチャートを作成し職員に周知徹底した。
- ② 手洗い、手指消毒の徹底を職員、利用者、来所者で行い衛生管理、感染症予防に努めた。
- ③ 施設内ではマスク着用の徹底を行った。通い利用者は、自宅での検温実施。来所者は、玄関での検温実施。職員は就業前に検温実施を徹底した。
- ④ 長期宿泊者の面会を控えていただき、タブレットを使ったオンライン面会等で感染予防に協力をいただいた。
- ⑤ マスク等防護対策用品や手指消毒液等が不足しない様、在庫管理を適切に行った。
- ⑥ 看護職員、介護職員間での情報共有を図り疾患の早期発見と早期受診に繋げた。
- ⑦ 換気チェックシートを活用して食事時と2時間毎の換気を行った。
- ⑧ 感染予防対策、発生時等の研修はできなかった。

### (2) 体調管理の支援

- ① 新規利用時に既往歴の確認。内服薬は、利用者個々の服用一覧表と薬の効能表を作成した。
- ② 医療機関受診時には、看護師が介護情報提供書を作成し、77件の情報提供を行うことでスムーズな受診に繋げることができた。

- ③ 介護情報提供書を作成することにより、本人・ご家族が伝えきれない情報を提供することができた。

## 5 委員会活動

### (1) 食事委員会

- ① トマトやキュウリ、茄子やピーマン等を利用者と一緒に苗の植え付けから収穫まで行った。  
収穫した野菜はメニューに取り入れた。
- ② 厨房の整理整頓、食材の在庫管理、調理器具の衛生管理を徹底して安全で美味しい食事を提供した
- ③ 嗜好調査のアンケートは実施できなかった。
- ④ 7月1日、選択メニュー(肉料理と魚料理)を取り入れ利用者に食事を選んでいただけた。

### (2) 介護委員会

- ① 各種発見、ひやりハット、事故報告は以下のとおり

#### 【各種発見】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒		2	2		1				1			2	8
転落						1					1		2
あざ											1		1
皮めくれ				1				1					2
怪我			1										1
その他								1					1
合計	0	2	3	1	1	1	0	2	1	0	2	2	15

#### 【ひやりハット】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転落				1		1							2
怪我				1		1		1					3
誤嚥・誤飲					1								1
無断外出												1	1
医療		1											1
合計	0	1	0	2	1	2	0	1	0	0	0	1	8

#### 【事故報告書】

	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院 有無
1	令和3年6月6日	転落	表皮剥離・裂傷	女	みどり診療所	無
2	令和3年6月22日	転倒	恥骨骨折	女	中林病院	無
3	令和3年8月3日	転倒	肋骨骨折	女	翠鳳第一病院	無
4	令和3年11月16日	不明	肋骨骨折	女	翠鳳第一病院	有
5	令和4年2月4日	転落	打撲・剥離	女	翠鳳第一病院	無

- ② 利用者のADLに適応した施設環境を提供した。身体機能を低下させることなく自立した生活が送れるよう問題があれば都度対応した。

(3) レクリエーション委員会

- ① クリスマスナカイの衣装作りや毛糸での小物作り、チラシを活用した工作など趣味活動が充実した。
- ② 広田中学校卒業お祝いボードをリニューアルした。切る貼る等利用者個々の出来る能力に応じて作成。緑文化展に出品して多くの方に見ていただいた。
- ③ 誕生日会や年間行事、日常生活など通い利用者には、画像をプリントアウトしてご家族に見てもらった宿泊者の家族には、SNSを利用して画像や動画を送って活動内容を伝えた。

6 年間行事

月度	行事内容
4月	お花見ドライブ(17名)
5月	広田小中運動会見学(広田小中運動会が中止)
6月	外出会(中止)
7月	七夕祭り(7/7・12名)
8月	夏祭り(8/9・11名、8/13・12名)
9月	敬老会(9/20・12名)
10月	運動会(10/18・12名)
11月	市文化展参加(11/1・7名、11/2・6名、11/3・1名)
12月	クリスマス会(12/24・12名)
	お餅づくり(12/28・9名)
1月	新年会(1/18・11名)
2月	豆まき会(2/3・14名)
3月	ひな祭り会(3/2・13名)

## みどりの家 行事紹介



4月  
夏野菜栽培



7月  
七夕祭り



8月  
夏祭り



9月  
敬老会



10月  
運動会



11月  
緑文化展見学



10月  
タコ焼き作り



12月  
クリスマス会



12月  
お餅作り



1月  
絵馬作り



2月  
豆まき会



3月  
ひな祭り会

# VI 居宅介護支援事業

## 1 施設の概要

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会 緑風館
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成11年10月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 併設施設 特別養護老人ホーム 緑風館

## 2 介護支援専門員

### (1) ケアプラン作成件数

区 分		令和 2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
予 防 プ ラ ン	要支 援1	洲本	45	4	4	4	5	8	7	6	5	6	6	6	5	66	5.5
		南あわじ	414	34	33	33	32	33	33	33	33	32	34	33	32	395	32.9
	要支 援2	洲本	81	6	6	5	4	4	4	4	4	4	4	5	4	54	4.5
		南あわじ	292	29	31	30	31	28	29	27	27	28	27	28	28	343	28.6
合 計		832	73	74	72	72	73	73	70	69	70	71	72	69	858	71.5	
介 護 プ ラ ン	要介護1	413	35	34	35	36	38	39	38	35	36	36	34	37	433	36.1	
	要介護2	285	23	23	24	22	22	26	28	29	30	28	25	26	306	25.5	
	要介護3	155	11	12	14	17	17	17	18	20	20	18	18	15	197	16.4	
	要介護4	87	6	6	5	6	6	6	6	5	7	7	7	7	74	6.2	
	要介護5	27	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	32	2.7	
	合 計		967	79	78	81	84	86	91	93	91	95	91	86	87	1042	86.8

① 要介護者は月平均86.8となり目標の80件以上となった。

要支援者は月平均71.5となり目標の70件以上となった。

新規の依頼は、介護が40件(月平均3.3件)、支援が26件(月平均2.2件)であった。

新規依頼のうち、直接依頼が26件と多かった。

地域包括支援センターとの連携により、8件の依頼があった。

加算状況については、以下の通りである。

区 分		令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予 防 プ ラ ン	初回	24	1	1	1	2	5	2	0	2	2	2	3	2	23
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介 護 プ ラ ン	初回	34	1	4	3	6	6	5	5	4	4	4	2	6	50
	医療連携Ⅰ	26	2	1	1	0	0	3	5	0	4	4	2	2	24
	医療連携Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定事業所Ⅲ	960	79	78	82	84	86	91	93	91	95	91	86	87	1043
合 計		1044	83	84	87	92	97	101	103	97	105	101	93	97	1140

(2) 住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるための支援

- ① 訪問時は事前連絡を行い、利用者・家族の状況把握を行った上で、電話・訪問対応を行った。
- ② 民生委員へ直接連絡や、在宅介護支援センターを通じて情報共有し、連携を図った。
- ③ 年間319件のケアプランを作成し、かかりつけ医に85件提示した。
- ④ 提供票やケアプランを事業所へ持参した際に、情報収集を行った。
- ⑤ 各保険者や地域と情報収集を行い、個々の利用者に応じた保険外のサービスを活用した。  
内容として、南あわじ市の配食サービス、オムツの支給、移送サービス、緊急通報システム、  
洲本市のオムツの支給、タクシー券の配布、配食サービス。  
民間の事業として、弁当の配達の利用を調整した。又、兵庫県地域サポート施設(LSA)を利用し、在宅生活の支援を行った。

(3) 緊急時の体勢整備

- ① 情報収集を一早く行い、利用者・家族・サービス事業所との調整を行った。
- ② 緊急時の早急な対応の為、連絡方法を確認した。
- ③ 利用者個々の見直しができなかった。

(4) 介護保険制度の周知と理解、事業所の広報

- ① 新規の利用者を担当した際に、FAXにて挨拶を行った。
- ② 施設内研修での周知はできなかったが、個々に相談は行い、2件支援した。
- ③ 在宅介護支援センターと協力して、2か所のサロンへ出向いた。(山添、中筋)  
また、今年度は、地域にある店舗のスペースを借り、無料相談会を2回開催した。

(5) 利用者、家族に満足していただける事業所作り

- ① 週1回の連絡会にて担当外の利用者の状況を共有することで、担当のケアマネジャーが不在でも迅速に相談支援を行うことができた。  
困難事例に関しては、事業所内でも事例検討会を実施したり、カンファレンスへの同行を行った。
- ② 準備もできず、実施できなかった。
- ③ 利用者・家族には契約時に周知し、安心できる体制を継続して行った。

(6) 介護支援専門員としての質の向上

- ① 今年度の報酬改定の内容を理解し、各サービス事業所の変更点を確認した。
- ② 自己評価は実施できなかった。
- ③ 月1回の南あわじ市、洲本市の介護支援専門員連絡会へ参加。オンライン研修が主となり、Web研修に参加した。  
南あわじ市の特定事業所、共同研修会は、コロナ禍で延期となったが、来年度へ継続しての実施を予定している。

## VII 在宅介護支援センター

### 1 施設の概要

[1] 名 称	緑風在宅介護支援センター
[2] 所在地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
[3] 開設	平成6年6月27日
[4] 設置運営	社会福祉法人 緑風会
[5] 併設施設	特別養護老人ホーム 緑風館

### 2 活動実績

区分	令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
活動日数	開所日数	252	23	22	22	21	22	19	22	18	22	17	20	17	245 日
	訪問回数	110	8	10	8	8	6	8	11	11	10	15	35	30	160 回
	会 議	8	2	1	2	3	3	0	3	5	3	3	0	1	26 件
	家 族 会	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件
	出前指導	6	1	0	0	1	1	0	2	1	3	1	0	0	10 件
	新規出前指導	10	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3 件

※訪問回数は、相談依頼への対応と、配食サービス、紙オムツ補助支給サービスのアセスメント調査。

※出前指導は2回目以降の認知症サポーター養成講座、新規出前指導は初回の認知症サポーター養成講座。

### 3 会議の内訳

区分	令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域包括在介護協会	11	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	9
その他の会議	17	2	0	1	2	2	0	2	4	2	2	0	1	18
合計	28	3	1	2	3	3	0	3	5	3	3	0	1	27

※ その他の会議は 緑地区地域ケア会議や民生児童委員会

### 4 いきいき百歳体操・認知症サポーター養成講座の内訳

区分	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
いきいき百歳 体操	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
認知症サポーター養成講座	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
合計	3	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4

### 5 相談内容別実績

区分	令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅生活について	15	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	5
情報提供	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	7
その他	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
相談実人数	17	2	0	1	0	0	0	1	3	1	1	1	1	14

## 6 調査訪問内容別実績

区 分	令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
オムツ調査	50	2	2	2	0	2	2	4	4	4	5	25	9	61
配食調査	24	0	2	0	2	3	0	1	1	0	1	1	12	23
継続見守り	35	6	6	6	6	6	6	6	6	6	9	9	9	81
合 計	109	8	10	8	8	11	8	11	11	10	15	35	30	165

## 7 令和3年度 事業計画に対する取り組みと結果

### (1) 相談窓口体制の整備

- ① 7月に広田地区公民館で開催された集いと学びの場、1月に訪問した山添地区サロン在宅介護支援センターの紹介、業務内容の説明を行った。
- ② 在宅介護支援センター新聞の配布を訪問し、いきいき百歳体操会場、認知症サポーター養成講座受講者へ配布し周知する。今年度は在宅介護支援センター新聞の発行ができなかった。
- ③ 地域包括支援センターや民生委員、警察や介護保険サービス事業所と連携して、地域の高齢者に対して、迅速で柔軟な支援を行った。
- ④ サロン1回、いきいき百歳体操2回、集いと学びの場1回の訪問をし、在宅介護支援センターの内容について説明を行った。

### (2) 認知症でも安心して生活できる地域づくり

- ① コロナ禍のため、1回開催したのみであった。
- ② 認知症サポーター養成講座開催時には、認知症カフェ、家族会のパンフレットを配布、認知症の方やその家族への支援体制があることを周知した。

### (3) 地域の支援体制の整備、課題解決への対応

- ① 月1回の緑地区地域ケア会議の運営、司会を行った。(感染症で中止になった月もある)地域ケア会議の課題として、買い物、通院、などの移動手手段や引きこもりの課題がでた。
- ② 各関係機関職員と定期的に地域ケア会議を実施する事で、具体的な支援体制を確認し迅速な支援に結びつけることができた。

### (4) 地域包括支援センターとの連携

- ① 地域包括支援センターからの依頼により、配食サービスのアセスメント調査を行い、高齢者の生活状況を確認し、地域包括支援センターとの連携を図った。
- ② 地域包括支援センターからの依頼により、紙おむつ支給のアセスメント調査を行い、高齢者の生活状況を確認し、地域包括支援センターとの連携を図った。
- ③ 見守り件数は4月から3件増えた。介護保険サービスに結びついていない高齢者の見守り支援を行い、状況報告を行った。状況に応じては地域包括支援センターや他機関と連携を図った。



